

(別紙1)

自己評価及び外部評価 結果

作成日 平成24年 5月24日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791100064		
法人名	社会福祉法人 高陽会		
事業所名	グループホーム風の里		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護、介護予防認知症対応型共同生活介		
所在地	大阪府岸和田市中井町3丁目2-27		
自己評価作成日	平成24年4月25日	評価結果市町村受理日	平成24年7月5日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	tp://www.osaka-kaigohoken-kohyou.jp
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の個性を大切にして個々にあったサービスを提供する
落ち着いた生活環境を提供して充実した生活を送ってもらうこと
イベントやアクティビティ、買い物等で外に出る機会を多く持っていること

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797
訪問調査日	平成24年5月11日(金)

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム風の里」は南海本線春木駅から徒歩15分のところにあり、近くにはスーパーマーケットや飲食店が多く、生活するのに比較的便利な立地にある。事業所では利用者一人ひとりの「生活の質を向上」をテーマに、地域との関係を深めていくことや職員の目的意識を統一して取り組むことなどを運営方針としている。事業所の特徴として次の3点を挙げることができる。第一に、食事について工夫をしている。食材は全て利用者と一緒に買物に出かけ、調達している。週2回の献立は利用者とは相談して決めていて、食事形態もバイキングや外食に出かけたり、毎週1回手作りのおやつを楽しんだり、変化を楽しめるように取り組んでいる。第二に、地域との関りを大切にしている。地域の老人会や小地域ネットワークなどの活動に利用者と共に積極的に参加している。第三に、生活空間を大切にしている。落ち着いたインテリアと対面キッチンとカウンター、ゆったりとしたダイニングとは別にリビングを設けていることや掲示物を極力少なくしておしゃれで自然な生活空間作りに努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念・基本方針は職員手帳に事業所理念は玄関ホール、職員事務所に掲示し共有している	事業所独自の理念・運営方針があり、それらを基に職員が毎年サービスの目標を定めている。今年は「生活（家事）への参加」で、利用者それぞれの家事について出来ること、出来ないことを共に考えて、職員が情報共有して支援している。目標には数値目標も定めていて毎年それらの評価も行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会長や民生委員の方から地域ネットワークの企画や老人会のイベントの情報を伺い参加したり、近隣の方に将棋などボランティアにも来て頂いている	自治会に加入し、地域の老人会や小地域ネットワークなどの活動（新聞回収・お花見・ふれあいサロン・秋の作品展・近くのお寺で開催する「詩とお話し会」等々）に利用者と共に参加している。また、地域の認知症サポーターの養成講座を手伝っている。これらの活動を通して近隣の住民とも良い関係を築くことが出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方の施設訪問の受け入れや、認知症についての地域での勉強会の講師派遣等ができる体制を引いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業報告、意見交換、情報収集を行いホーム運営に生かしている。地域の行事には積極的に参加している。	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催している。家族等や介護相談員を兼ねている民生委員、自治会役員、市職員が参加している。席上事業所の運営報告や地域からの行事の情報提供など活発な意見交換が行われている。利用者が行方不明になったときなど、緊急時に町内放送を流してもらう仕組みができています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	電話連絡等で済ませることなく面談し報告、連絡するよう心掛けている	市の担当者とは常に連携が取れるように情報提供や相談を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>内部研修の実施や日々のミーティングの中で学び身体拘束しないケアの実践を行っています。</p>	<p>研修計画をもとに内部・外部研修を積極的に実施している。毎年身体拘束をしないケアの実践についての研修も行っている。日中の時間帯は鍵をかけないケアを実践しており、利用者が外出しそうな様子を察知した場合は、さりげなく声がけをしたり一緒についていく等、安全面に配慮しながら支援している。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>日々のミーティングや会話の中でどういふ状況が虐待や拘束につながるのかを話し合う機会を持つようにしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している</p>	<p>権利擁護、成年後見制度の外部研修に参加し参加者により報告会を開いている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>施設見学、相談、契約には管理者が必ず出席し、家族の相談、疑問について答えている。また、契約時の重要事項について納得いただき契約書に署名、捺印を頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議にも利用者の代表者が参加できるように配慮している。</p>	<p>日頃から職員は利用者・家族等とのコミュニケーションを大切にして、些細なことでも話してもらえるように努めている。毎月利用者の様子を新聞「凧日和」にして家族等へ送っている。また、年1回家族等へアンケートを実施して個別の要望・意見等の聴取を行っている。出された意見や要望は会議で検討して、改善に結び付けている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>ミーティング時の話し合いの場で個人の意見を出してもらっている。また、様々な企画の立案は職員に任せ運営者、管理者は安全面の確認を中心に行っている。</p>	<p>管理者は毎日のミーティングや日常の関りの中で職員とのコミュニケーションを深めながら、意見を出しやすい雰囲気作りに努めている。職員からの意見によって毎週水曜日に手作りのおやつを作ることやゴミ出しの手順など日々の業務について見直しを行っている。管理者は年1～2回人事考課を行う時などに職員と個別に話し合う機会を作っている。</p>	

12	<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>年に2回の自己評価で職員の意識、向上心の把握をすることで就業環境の整備をしている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>入社時の基礎研修、内部研修（年6回）、外部研修は研修内容や経験に応じて積極的に参加している。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>市内の施設部会に参加したり、グループホームの情報交換会には必ず複数の職員が参加できるよう配慮している。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所時の聞き取りの中でアセスメント、カンファレンスを行っています。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所時の聞き取りの中でアセスメント、カンファレンスを行っています。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けた時にその方に今一番必要とするサービスを家族と共に考え、必要とあらば他のサービスを紹介する。</p>		

18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人との日常の会話から今までの生活の様子、嗜好を聞きながら、あくまで本人中心の支援をしている。		
19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況に応じ利用者には家族の話を、家族には訪問時や便りを通じて様子を伝えるよう努め利用者と家族の良い関係が継続するように支援している。		
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所まで親しくしていた方の訪問を家族に勧めたり、会話によく出る近隣の場所にてかけるよう配慮している。	利用者がこれまで大切にしてきた人間関係等の情報を把握して関係継続の支援に努めている。知人や親戚が訪ねて来る利用者も数名いる。以前は馴染みの美容室に通っていた利用者も今は重度化のため難しくなっている。近隣のスーパーマーケットには毎日買物に出かけ利用者の馴染みの店になっている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団生活に支障がでないよう時には職員が間に入ったり、馴染みの人が一人でも多くできる様対応している。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時又は契約終了後も家族と連絡を取るようにしている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9 ○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回時のアセスメントやミーティング時で問題点や希望を把握しその人らしい生活が継続していける様支援している。	入居時に聴取した利用者の生活背景や希望・意向などに加えて、日頃の利用者とのコミュニケーションを通じて暮らし方の希望、意向の把握に努めている。把握が難しい場合でも、利用者と接する時間を大切にして関係を深めていきながら、表情や身振り等からその意向を汲み取るようにしている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	訪問調査時に本人や家族の希望、意向を伺いケアプランに反映させ、職員の共有の認識としている。		

25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人カルテを詳細に記入し、職員が情報を共有することにより、一日の過ごし方や心身状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所前のアセスメントでは家族、サービス関係者より沢山の情報を入手し、安心して生活していただける様介護計画に反映するようにしている。	利用者・家族からの要望等は日頃から聴き取りを行っている。入居後1ヶ月、3ヶ月後とその後6ヶ月毎にモニタリング及び再アセスメントを行っている。そして関係者それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。必要な場合は随時の見直しを行っている。	家族等からの要望等は来訪時等に口頭で意見を聴取している。しかし介護計画の見直しの前にカンファレンスへの参加を呼びかけたり、改めて意見の聴取はしていない。今後はカンファレンスへの参加を呼びかけることや書面でも意見聴取を行うなどの取り組みが期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテは個人別に記録しカンファレンスでその情報をもとにケアプランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模の利点を生かしてご家族の希望に添えるような柔軟な対応をしている。入所前に何度もお越し頂き環境に慣れて頂いたケースもある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公共施設利用時の配慮等願っている。介護相談員（民生委員）の方にも訪問して頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時の説明時に家族の希望を伺いその意向で支援している。	利用者や家族の希望を聴き取り、かかりつけ医や協力医療機関に受診できるよう支援している。家族の同行受診が基本であるが、職員が同行することもある。受診後の情報は受診カルテに記録し、職員間で共有している。受診内容に変化があれば書面で家族等に伝えている。	

31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	かかりつけ医の看護職との関わりを大切にし、ホームでの状況を伝え助言を頂いたり、馴染みの関係づくりを大切にしている。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には定期的な訪問を行い担当医と情報交換をしている。		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来るだけ早い段階から症状の変化があった場合家族と将来の希望を話し合うようにしている。	現在のところ看取りを行う方針はない。入居契約時に、重度化・医療処置への対応について、事業所で十分な対応ができない場合は医療機関等へ移ることを検討する旨の説明を利用者・家族等へ行っている。そして病状に変化が見られた場合には早い段階から家族等と話し合うようにしている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修や緊急対応マニュアルによって徹底している。		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害、防災マニュアルを基に職員間で周知している。消防訓練も実施している。運営推進会議に於いて、地域の代表の方々に協力もお願いしている。	防災訓練を年2回実施している。スプリンクラーや消火器を設置している。運営推進会議で働きかけを行い、非常時には町内放送を流してもらって仕組みができています。また、増築された2階に飲料水等の備蓄を行う予定である。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14 ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉の虐待や個人情報の扱いについて日頃のミーティングで話している。	ミーティング時には利用者一人ひとりの人格の尊重や言葉かけや対応を大切に支援することを徹底している。プライバシー保護や接遇マナーについての研修を毎年行っている。また、個人記録等は外部の目に触れないように鍵のかかる書庫に保管している。	
----	----------------------------------------------------------------------	-----------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるかぎり選択して頂けるよう押し付けの援助を避けるようしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	小規模の利点を生かし利用者のペースに合っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の能力ごとに支援している。理容、美容については、家族とコミュニケーションをとり援助している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事については買出し、下ごしらえ、盛り付け、後かたづけ、と様々な場面で利用者の能力に応じ支援している。「食」の提供方法を多様に考えている。	食材は利用者と一緒に近くのスーパーマーケットやコンビニエンスストアに出かけ、調達している。週2回の献立は利用者とは相談して決めていて、毎週水曜日の昼にはおやつを手作りしている。また節分には巻き寿司・クリスマス会にはバイキング形式でオードブルなどで楽しんでいる。落ち着いたインテリアの中でテーブルとカウンター、思い思いの席で利用者は食事の時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人別に食事摂取量と水分管理のチェック表を用いて、日々の観察をしています。また月初には体重測定も行っています。		

42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	援助の必要な方には、適切な声かけと援助を行っています。		
43	16 ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	ミーティングで話し合い利用者の能力に応じた支援をしている。	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握している。布パンツ・リハビリパンツ・パッドを個々の状態に合わせて使用しており、能力に応じて支援している。利用者の自尊心に配慮し、可能な限りトイレでの排泄を促すよう支援している。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組ん	排便チェック表で個別に観察しています。必要な方には乳性品の摂取等を行っている。		
45	17 ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は曜日や時間、間隔を決めずに楽しんで頂いてる。	利用者の希望や体調に合わせて入浴できるよう、特に入浴の時間を決めていない。基本的には同性介助となっている。入浴を拒否する利用者には、職員がタイミングや言葉かけを工夫するなど入浴を楽しめる支援を行っている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境の整備を行ったり、利用者の方の生活のリズムを整えるよう支援している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の説明書を個人カルテに表示し作用、副作用の確認をしている。薬は分かりやすく管理し、服薬チェック表に記入し管理している。また症状の変化の確認も行っている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人個人の生活歴や一日の過ごし方の状況を生かし定期的な企画（外食、バイキング、映画の日、散歩、ドライブ）や季節ごとの企画を取り入れている。		

49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日々の食材の買い物、散歩、嗜好品の買い物は頻繁におこなっている。また外食等の企画は月一回は最低行っている。	日常的に近くにあるスーパーマーケット・コンビニエンスストアに食材の買出しや趣好品・お菓子を買に行ったり、公園を散歩している。また、お花見に大仙公園や国華園にドライブを兼ねて出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己にて管理できる方には所持して頂き、外食や買い物時に使用してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話をかけたいと希望の場合はかけに行き手紙の場合は返信できるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	状況に応じた照明の点灯パターンをつくっている。また季節感を感じられる生け花や掲示物をリビングや玄関ホールに用意している。	玄関ホールは段差がなく、テーブルと椅子や植木などが置かれている。リビング・ダイニングは広く、テレビ、対面キッチンとカウンターがある。また、少し離れたところにリビングを設け、ソファやテレビ、ピアノなど設置している。他の利用者とは別に過ごしたい利用者にとって落ち着けるスペースとなっている。掲示物を極力少なくしておしゃれで自然な生活空間作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の方には居室、ダイニング、リビング、玄関ホールで気の合う方、家族との面談、又は一人で過ごしていただいている。また晴れた日には、中庭のベランダにテーブルを用意しているのでそこでも過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の説明で今までの使い慣れた馴染みのある家具類等持ってきて頂けるよう説明している。	居室にはベッドやクローゼット、洗面台等の設置がある。利用者が使い慣れた椅子、枕、タンス、机などが持ち込まれている。居室の壁にはカレンダーやぬり絵があり、机の上には日記帖や思い出のある写真などが置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には利用者の方の目印になるものを表札がわりに出している。またトイレには表示と照明の工夫をしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ 	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ 	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ 	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ 	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない	②
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない	②
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない	④
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない	
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない	
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない	
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない	②